

令和4年度事業計画（案）

2022年1月22日

総務委員会

1. 総務委員会・100周年記念事業委員会

- ・ 合同幹事会を年4回開催 5月・9月・1月・3月
- ・ 代表幹事会の開催 年2回 8月 および12月
- ・ 松本本部同窓会 6月、関西同窓会 7月、僚友校（深志、松商）総会に参加
- ・ 松本本部新年会（1月）への参加（100周年記念事業との連携）
- ・ 年度活動計画、幹事会議事録を作成し、ネットで公開（幹事専用）
- ・ 渉外、広報のバックアップ（松本本部交流、同窓連・僚友校等外部交流、ホームページ）
- ・ 6年委員会・縣陵東京同窓会活動のサポート、同好会等へのバックアップ
- ・ 総会・懇親会参加者に同窓会活動のアピール、
- ・ 100周年記念行事に向けた準備（本部同窓会との連携）
- ・ 長野県外在住者の母校へのふるさと納税寄付金活動を呼びかける

2. 財政委員会

- ・ 会報「あがた」、ホームページで年会費及び終身会費納入と寄付のお願い。
- ・ 会費納付者の状況把握
- ・ 第55回総会実行委員会と広告料、総会費等の入金情報を緊密に行う。
- ・ 終身会費及び年会費の管理、財政委員・幹事長・会計委員・広報委員会との密な連絡
- ・ 会費徴収目標

終身会費	20名 (@20,000円)	400,000円
年会費	200名 (@2,000円)	400,000円

3. 渉外委員会

- ・ 中信同窓連、東京同窓連の各行事（役員会、総会、忘年会、新年会、旅行会、ゴルフコンペ）に積極的に参加し、会員相互の連携と親睦交流を図る。
（中信同窓連）総会、親睦ゴルフ、懇親旅行、忘年会
（東京同窓連）総会、新年会、親睦ゴルフ会、みすゞかる句会

4. 縣陵レディース

- ・ コロナ感染の状況を鑑みながら、以下の計画を行う
 - 4月 役員会議：今年度の行事計画の打合せ(行事開催の有無を含む)
 - 5月 役員会議：行事内容の決定
 - 6月 行事下見、同窓会総会にて行事の周知及び参加呼掛け
 - 8月 役員会議：行事の具体的内容について決定
 - 9月 女性会員に行事の案内状を送付
 - 11月 今年度行事を実行

5. 広報委員会

【広報部門】

- ・ 会報「あがた」44号を発行：
A4・12ページ（モノクロ1色印刷）約2,800部を予定（4月末）
- ・ 第55回東京同窓会・総会の案内状・申込はがきの制作、配布資料作成協力（4月末）
- ・ 母校卒業生（75回）向け同窓会案内作成と配布依頼（12月）

【ホームページ部門】

- ・ 新規「HP管理委員会」立ち上げサポート（予算案の作成支援ほか）
- ・ 「縣陵コネクション」管理・運営

6. 総会指導委員会

- ・ 第55回東京同窓会開催
日時：6月11日（土）、会場：アルカディア市谷（私学会館）3階 富士の間
実行委員長：高44回卒業生 松沢真介
- ・ 7月 引き継ぎ会（高44回～高45回へ）
第55回実行委員会より結果報告と次期への引継ぎ
東京同窓会実行年度の説明と意義について
次期会報制作に向けた基本スケジュールの確認など
- ・ 1月 総会指導委員会・広報委員会合同委員会、広報「あがた」編集会議
- ・ 3月 実行委員会との情報交換会
第56回東京同窓会への開催準備会
第56回東京同窓会の企画内容の確認及び動員計画の確認
次期実行委員への早期対応と同窓会員の状況把握
幹事の有無の確認と幹事を通して各同期生の住所確認、連絡方法等事務局との連携

7. 6年委員会

- ・ コロナ影響も踏まえ、オンラインとオフラインの環境をミックスした新たな交流の場を設計し、6年委員ならびに6年間の同窓生の交流を促進する。
（試行的な取組みを実施。まずは質より量を優先）
- ・ 6年委員会の活性化と当初の6年委員会の原点に立ち返り、6年間の同窓生の発掘に注力する。（6年委員や関係者と意識合せを行う）
- ・ 100周年にむけた松本との連携の強化と交流促進（母校訪問、松本のイベント参加）

8. 会計委員会

- ・ 会計ソフトを使用して金銭出納処理を行う。
- ・ 実行委員会口座の使い勝手を確認し運用方法の改善を行う。
- ・ 会計委員会内での作業継承・分担を図る。
- ・ 総務委員長と協力して年度予算案を立案し幹事会に提案する。
- ・ 実行委員会会計と協力して総会・懇親会決算書をまとめ監事に提示し会計監査を受ける。
- ・ 総務委員長と協力して決算書を作成し幹事会の承認後、監事に提示し会計監査を受ける。

9. 事務局（令和3年度の事業計画から転載）

- ・ 名簿管理については従来通り、知り得た情報を反映するとともに、若手の名簿を充実させる。
- ・ 母校100周年に向けて、関連委員会のバックアップ。
- ・ 同窓会の将来の為に、卒業生の所在と連絡方法を把握する。
- ・ 名簿上位記載会員の状況把握。
- ・ 事務局人材確保。

以上